

学級文庫



池田彩香

美容院

中学生の時、母が通う美容院へ初めて行く事になりました。母はまだ通わせたくなかった様ですが、私がある頃読んでいた漫画の影響で貞子のような髪毛のサイドだけを自分で切ってしまったのを見て諦めたのだと思います。（私は中2病を患っていたので周囲の薄笑いにも気が付かず、ご満悦でした。）

さて、美容院へ行く事になった私はどんな髪型にしようか悩みました。友人達に相談すると「広末涼子みたいにしてもらい！」と言います。広末涼子さんが誰だか知らないと言うと、クラスで人気のある女子を指して「ほら、あんな感じよ！」といました。でも私は彼女の様になれるとは思えないし、スピードを見た直後でキアヌ・リーブスが大好きだったので彼みたいにもらおう。と思いました。

当日、私は足取りも軽く美容院へ向かいます。カランコローン「いらっしやい！」おじちゃんと言いました。私は母の本棚から勝手に借りてきたロードショーを指差して「この人みたいにしてください！」と言いました。おじちゃんは困惑して「あの、近所の目もあるからこんなに短くは切れないよ。。」困りました。何度かお願いしてみましたが無理なようです。残念ですがA案は中止です。仕方が無いので友達の家を借用する事にしました「あ、じゃ広末涼子みたいにしてください。」「OK！OK！」

「はい！できたよ！スッキリしたね！後ろこんな感じ！」おじさんの声はもう私には届きません。なぜなら切り終わった後の鏡には私ではなくお父さんがうつっていたからです。母に「あなたはお父さん似よ！」と言われても一度も信じた事が無かったのですが、自覚しました。私、お父さんのコピーロボットだ！帰り道、家が遠かったです。次の日、先生が髪型を褒めてくれたので屋上から飛び降りなくて済みました。先生ありがとうございました。

高校生になり私はまた別のお洒落な美容院で「すみません！こんな風にしてください！（キアヌの写真を持参して）」と言いました。スタイリストさんは少し考えて、ここまで短くはできないけどかわいくしたげるね！と、ベリーショートに切ってくれました。ホンダさん、あの時は無茶振りをうまくかわしてくれてありがとうございました。

iPhone

流行り物が大好きな私が携帯電話会社が違うからと我慢をしていた電話「iPhone」いつかどこ
の会社でも使えるようになるかも！と自分を騙していたのだけどTwitter上での友達の楽しそうな
様子に我慢できなくなり購入しました。

iPhoneは普通の携帯電話と違って数字のキーがありません。操作する時は全部、銀行のキャ
ッシュコーナーの様なタッチ式です。電話をかけるのもタッチで、音楽を聴くのもタッチ、写真
を撮るのもタッチ、メールを送るのもゲームをするのも全部タッチ一回でポンです。

Twitterをパソコンを立ち上げて見る事が多かったのですが、iPhoneに替えてからはiPhoneから
見る事が増えました。文字を打つのに慣れて早くなり、とても快適で私の癒しです。今夜も大
好きなバンドのUST（インターネット生放送番組）を見ながらつぶやきます。〇〇加イ(*´Д`)'
`ア' `ア。立派な変態です。絵文字の(*´Д`)' `ア' `アを打つのが面倒なのでコピーします。タッ
チタッチ！そういえば専門学校時代の先生が最初の授業で教えてくれました。「すべての基本は
コピー&ペーストですよ！コピー&ペーストが出来れば何でも出来ます！」

さて、次の日のことです。私は幼稚園のイベントのちょっとした責任者になったので担当役員
の奥様と当日の入り時間についてメールのやり取りをしていました。メールを打つ事にも慣れて
鼻歌交じりに「当日の入り時間は昨年度14時でしたので、今年度も14時でどうでしょうか（笑顔
の絵文字）」とそこまで打ち、打った文章の全体を確認しようと画面をタッチしたところ、昨夜
の「〇〇加イ(*´Д`)' `ア' `ア」が突然ペースト。あ、消さなきゃ！と文の端っこをタッチした
瞬間、送信中の文字と何%ほどメールが送れたか表示する目盛りが現れました。ちょちょち
よちょっちょっ、キャンセルボタンどこ？と探す私の心を置き去りに、どんどん進む目盛り。
フォン！（送信完了の音）

こうして私のハッピー幼稚園ママ生活が年少3ヶ月目にして終わりました。
登園拒否決定です。相手の奥様からは「あ、じゃあ14時で…」と返信が。
きっと「…」の中にはいろんなやさしさが詰まっているんだと思います。

正直者のおじいさん

昔話に出てくる正直者のおじいさんは実はKYなんじゃないかと思い始めました。なぜそう思うようになったかと言うと次女が正直者であり、空気が読めない子だからです。

次女は自分の気持ちに正直です。家族4人の頃の事です。ディズニーランドへ行きました。私も夫も長女も大好きな場所です。新幹線に乗って、バスに乗り継ぎ、やっと入り口を入れて3歩目に「ねえママ！帰ろ！」それから2泊3日滞在したのですが、ずっと抱っこでした。私は三女を妊娠中だったのであまり抱けず夫がお疲れでした。自分も長女が生まれるまであまり興味の無い場所だったので気持ちはわかります。ですが人の気持ちを考えたら言えませんか。新婚旅行で行ったアメリカのディズニーランドで、パレード中のミッキーに向かって夫が「ミッキィィィィィ！！ミニィィィィィ！！」ともものすごくキモく手を振り話しかけていても私は「帰ろう！」とは言わず、横でおとなしくアイスを食べた我慢をしていましたから。

また、すべての物事の真相を知りたいがります。ある日、私はお腹の調子が悪くトイレへ急いでいました。そのお店では奇数階にしか女子トイレがなく、三女がベビーカーに乗っていたのでエレベーターで奇数階に向かいます。エレベーターの中は私達とお姉さん二人組みとおばちゃん三人組が乗っていました。一つしか移動しないのだからすぐすぐ！と自分に言い聞かせて乗ったはずなのににお腹は言い包めませんでした。恥ずかしい事に、すこーし、あの、は行の四番目が出てしまいました。すると次女は大きな声で「ねえママ？おならした？」と聞きます。私は慌てて「違うよ、三女ちゃんうんこでちゃったのかなあ？」と、とぼけます。長女も空気を読んで「三女ちゃんちゃった？」とフォロー。でも次女は「は？ままでしょ？」と譲りません。ええ、もうエレベーターの中には笑いがあふれていました。そそくさとエレベーターを降りトイレへ急ぐ私に次女は「ねえママ？さっきおならしたでしょ？」と続けます。長女はもう笑いっぱなしです。私はトイレを終え待っていた次女に言いました「したした、ママおならしたよ！でもママも女の子だし恥ずかしいから誰にも言わないでね！」

神様、なぜ翌日の幼稚園バスのバス停で子ども達が私がしたおならの話で盛り上がっているのでしょうか？

きっと正直者のおじいさんも、すずめのお宿で「ねえねえ、これ何？何で大きさ違うの？何入ってるの？ねえ何？どうして違うの？」ってしつこく聞いたに違いない。

モテ期

モテてモテてしょうがない次期が人生には3回あると言いますが、皆様はもう来ましたか？私は産まれた時と結婚した後と2回ほど来た様なので後の1回は老後にでも大事にとっておきたいと思っています。自分で操れないのでどうしようもないのですが…。

さて、今我が家にはモテ期を迎えている人がいます。次女です。小学校に入学してから、かれこれ1年以上続いています。なぜ？と家族一同クビを傾げていますがモテ期に理由など求めてはいけません。1年生の最後の方には婚約者も現れました「俺、次女ちゃんと結婚するけー！」モテ期ゴイスー。

そんな次女は放課後、大抵の日は男の子と遊びに出かけます。家に居る私は電話、直ピンポン等で「次女ちゃんいますか？遊べますか？」「どこに行きましたか？」の問い合わせに答える簡単なお仕事をします。いったい何をして遊んでるのかなー？と疑問に思っていたのですが近所の奥様からの目撃談が届きましたので、ある日の次女と男の子の様子をお伝えします。

公園に手をつないで現れた次女と男の子はブランコに乗ったり砂場で団子を作ったりして遊んでいたそうです。そして少し時間がたった後、「次女ちゃん、目をつぶって？」と男の子。次女も「何で？」とか言いながらも素直に従った様です。奥様は変な事しようとしたら止めなきゃ！と決めて近くでじっと息を潜めます。男の子は近くに咲いていたお花を摘み次女の手へ置きました「目、開けてもいいよ！」と男の子がかっこよく決めた瞬間次女は「あ？何コレ？団子作ろ！団子！」とお花を投げ捨て砂場へ。奥様爆笑。「男の子かわいそうだったー！」との事です。

…モテ期もったいない！どうか次は適齢期に来ますように！と願う母なのでした。

めがね

小学生の頃、夜の8時には家の2階に上がり2段ベッドの中に放り込まれ就寝。（本当に放り込まれるわけじゃないよ！）という生活をしていました。いくら小学生でも8時には眠くなりませんので、母に隠れて理科の実験で手に入れた豆電球を工夫して直列で繋ぎ（部屋の明かりを点けたら1階の窓から大きな声で叱られてしまうので）布団をかまくらのようにかぶり「りぼん」などを読んでいました。また、母はテレビが嫌いだったのか、私達を良い子に育てようとしたのか（反動で私と弟はふざけた事ばかりする大人になってしまいました）テレビも禁止でした。見れるのはニュースとNHKのアニメ（母のお眼鏡に適ったもの）とクイズ番組ぐらい。なので私にとっての娯楽は妄想と読書だけでした。二十四の瞳やドリトル先生、長靴下のピッピなど、とにかく学校の図書館の本を片っ端から借りて帰り、毎日毎日それは熱心に読み続けました。結果は最初から予想されましたが母は予想もしていなかったでしょう。あっという間に私は近視になってしまいました。

小学5年生の時に母より与えられた初代のめがねは「裕次郎かよ！」とつっこみたくなるめがねでした。（裕次郎さんはサングラスだけど…）「あんたすぐ壊すけえこれがいいわ！丈夫そう！」との母の一声で、私が欲しかったフレームレスメガネ案は一瞬で却下され、それから高校生になりコンタクトレンズに替えるまで、丈夫な裕次郎メガネは私の相棒だったのでした。

しばらくコンタクトにお世話になっていたのですが、またメガネさんのお世話になる時がやってきました。妊娠・出産と忙しい時に着けたり外したりは面倒でしたし、その頃はまだラブラブな夫に裕次郎メガネは見せられません。私は何年かぶりにメガネ屋さんへ足を運びました。決定権が自分にあるってすばらしい！昔と違ってお洒落なめがねがたくさんあって迷ったけれどセルフフレームの赤いめがねにしました。ださくてかけるのが嫌だっためがねが、お洒落アイテムに変わった瞬間でした。

その赤いお気に入りのメガネは買ってすぐ横で寝ていた夫の寝返りによって破壊され修理し、長女に壊され修理を繰り返し最後には生産終了でお別れしました。三代目のめがねも次女に壊され買い替え、四代目はセルだと蔓の継ぎ目がすぐ壊れるから、と、無印良品のチタン製の丈夫な物にし、今にいたります。最初はお洒落度優先で買っていたはずなのに気が付くと途中で昔、母が言っていた「すぐ壊すけえこれがいいわ！丈夫そう！」に…。

三女も大きくなった事だしお洒落メガネ欲しいなあ、と思う今日この頃です。

おじいちゃんとおばあちゃん

私たち兄弟（私・妹・弟）は広島に引っ越してきてから、夏休みや冬休みといった長い休みは田舎の祖父の家へロングステイしました。祖父は大抵ふらっと車で現れ、道路で遊んでいる私たちを車に乗せます。近所のスーパーでお菓子を買って貰って帰宅すると母が「ちょっともう、近所のおばちゃんが連れ去りだって騒ぎそうになってた！」と言い祖父と笑いました。おじいちゃんがコーヒーを飲み終わると、荷物を積んで田舎へ出発です。途中で従兄弟の家にも寄って一緒に向かいます。従兄弟のともくんは車に酔ってしまうので助手席です。

祖父の家では普段見られないテレビを見て、おやつの時間になったら畑でおばあちゃんが育てた野菜を収穫して食べました。お腹がいっぱいになると花や草を摘んで外用に置いてある本物の包丁でおままごとをして、飽きると四葉のクローバーを探し、池にいる鯉に餌をやり、小川でしじみを拾ったり、またある時は、生まれたばかりの子犬を1日中眺めていたこともありました。家で禁止されている料理もしました。とにかく全員、自由に過ごします。後片付けをする祖母は大変だったと思います。

祖母はお花と野菜を育てるのが上手でしたが、料理も上手でした。一番好きだったのは巻き寿司です。でもごくたまにとても独創的でもあったので、一部紹介させていただきます。まずはスイカとトマトのミックスマッシュ。きっと両方、畑で豊作だったのだと思います。孫は誰も飲みませんでした。祖父も「やーれ、おまつりの準備（神主さんでした）せにゃいけんわい。」と逃げました。おばあちゃんは瓶につめて冷蔵庫にそっとしまい、そのまま忘れてしまいました。次にお花のゼリー。なぜか透明なゼリーのなかにつつじが入っています。とってもきれいでしたが、つつじは食べ物じゃないのでみんな花以外のところを薄くつついてごちそうさま、しました。ミルク粥は妹がはまり毎日食べていたヒット作です。でも最近聞いたら否定しました。でもおいしい！おいしい！と毎日食べていたのを私と弟は覚えています。

田舎に居る時に一番好きだったのが山登りです。鎌を手に、籠を背負って山を進みます。春は山菜、秋はキノコに栗！たにわたり（サクラシメジ）というキノコは本当に谷を渡る程あって取っても取ってもありました。おばあちゃんはたまに木の実をとって口に入れてくれます。甘くておいしかったけれど大人になってもそれが何の木の実だったのかわかりません。おじいちゃんは水の湧き出る場所で柏餅に使われる、まあるい葉っぱを使って器用にコップを作ってくれました。

山登りは祖母に植物の名前をたくさん教えてもらえる時間でもありました。「おばあちゃんこのお花何？シクラメン？」「この紫の花は片栗いうてね昔はこの花から片栗粉を作ったんじゃけど今はじゃがいもから作るけ、使わんのよ。でもね、この花がめずらしいけ盗って行ってしまう人がおって少のうなってしまったんよ。じゃけえ、ここにあることは ナ イ シ ョ 」

夏休みはおじいちゃんが毎日、町営プールに連れて行ってくれます。プールは屋内型で雨でもへっちゃらです。プールに入る前に腰まで浸かる消毒槽があるのですが、いつもモスラみたいな蛾がたくさん浮いているので私たちは横の柵に登り突破します。浅いプールは底に魚の絵が書

いてあります。私はその絵が揺れて見えるのが怖くてあまり浅いプールには入りませんでした。深いプールで何をして遊んでいたのかあまりよく覚えていません。泳ぎは苦手なのに毎日何をしていたんだろう。帰り道、おじいちゃんはたまに駄菓子屋に寄ってアイスを買ってくれました。

入院中の祖父に会うたびに言おう、言おうと思うのだけど涙がこみ上げてきて言えなかった「ありがとう」二人を思い出すたびに、何でちゃんと言えなかったんだろう。と後悔するのです。

ホームステイ

高校2年の夏の事でした。先生から春休みにホームステイに行きませんか？というプリントが配られました。主催はPTAだったと思います。そのプリントには私が憧れているロンドン近郊に1週間ホームステイをしてフランスで観光して帰るプランとアメリカのソルトレークシティにホームステイをしてハワイで観光して帰るプランが印刷されていました。そのプリントを見つめながらみっくん（親友）と「行きたいねー！イギリス！」「行きたい！イギリス！」と、ひとしきり「もしも行ったら何する？」と盛り上がり帰宅しました。次の日の朝、登校してきたみっくんが「母さんが良いて言ったから行ってくるわ！イギリス！OASISの国一！リアム待っててね！」ちよっwwwおまっwwwと焦った私は帰宅後、母に駄目元で聞いてみました。「これ、行きたいんですけど（消え入りそうな声でプリントを差し出しながら）」「は？イギリス？何で？」あはっ、やっぱり無理ですよー、いいです、いいです、忘れてください。

その日の夜、私がベッドの上でボーイズラブ小説を楽しんでいるとドアが突然開きました。私は慌てて隠します。「な・・・何？」「お父さんはこんなもん行かんでええ！って言ったけど私は行かせてあげたいから行きなさい！その代わり自分のバイト代から払いなさい！」…なんか、よくわからないけど、やったー！です。母の気が変わらないうちに申し込みました。

そして初めての説明会。「えー、イギリス希望者が多すぎるため今からくじを引いてもらいます。ハズレた人はアメリカに行ってください。」…！

母にイギリスにホームステイしたい理由を言っていないでしたが、私は当時The yellow monkeyというバンドにはまっていました。ファンクラブに入会し、地元で開催されるライブは全部行き、夏のちょっと遠い所の野外ライブも長距離バスで行き…今考えるとちょっと冷静になりなさい！と諭したくなるのですが、それほど好きだったんです。イギリスに行きたいと思った理由も彼らのUK版CDが発売されていたからです。アメリカに行っても買えません。私の横でみっくんもMr.ビーンのテディを抱いて固まっています。「おう、テディ！」

その後、保護者からの抗議によりくじは中断、希望者は全員イギリスに行ける事になりました。あ、あぶなかった！

こうして無事イギリスに行った私は、つたない英語を駆使しケイト（ホームステイ先のかわいい女の子）と一緒にロンドンに出かけてCDを手に入れ帰国したのでした。春休み明けにイエモンファンの友達に貸してあげようと学校に持って行くと「あ、街中のCD屋にさ、それあったよ！買った買った！」いいけど。テレタビーズとテディとピンキー&ブレインも買って来たもん！…友達「全部古着屋にあったし！」ぐう

ホームステイ2

イギリスでのホームステイ先はケント州のヒルデンバラという場所でした。ヒースロー空港からバスに乗って滞在中に通う男子校へ向かいます。そう、男子校だったんです。もうイケメンパラダイスです。ちっちゃい男の子のカワユスなこと！パンパンに詰まったリュックを背負いながらも、ドア開けてくれたりするジェントルマンな所に萌え、到着日当日盛大に鼻血を出したのは私です。

さて、到着すると受け入れ先のホストファミリーが食堂で待っていてくれました。一人ずつ名前を呼ばれます。「アヤカー！」うん、サヤカって言いにくいよね。はい！はい！ここですよ！お母さん！「私だけでごめんなさいねーケイトは今日友達の誕生日パーティーに出かけちゃって！」「ノープロブレム！」「お腹すいた？」「いえすっ！（と言いながら首を横に振る）」「ちょwwwさやかwww」

家に着いてケイトのお姉ちゃんに私を紹介し、部屋に案内するとお母さんはいなくなりました。しばらく部屋で遊んでいると「さやかー出かけるわよー！」おねえちゃんと気まずいドライブです。ほとんどMUGON。

「着いたわよ！」着いたところはパブでした。「私ここで働いてるの！母の彼氏もいるわよ！」って言ってたと思います。さらに「さやか、何か飲む？何がいい？」というのでオレンジジュースを頼むと「えー！アルコール飲まないのー？」ちょ、日本人まだ17歳じゃ飲んじゃいけません！と説明してジュースを貰いました。でもなんか気まずいまま時は流れていきます。すると突然後ろから大きなおじさんに抱っこされました。！？そのおじさんは耳元で囁きます「さやか、あなたはアルコールを飲まなくてはいけない！（例文調なのはおじさんがhave to~を使ったので頭の中でまじめ変換された為）」

とんでもない所に来てしまったようです。ちょっとちびりそうになりました。

私が退屈そうにしていたのでお姉ちゃんは家に連れて帰ってくれました。安心したのもつかの間、私はお風呂に入りたいのですがお風呂の場所がわかりません。お姉ちゃん…辞書と会話実用集を片手にお風呂の場所を聞き、シャワーの使い方がわからず尋ね、「バスタオルを貸してください」が言えなくて、持参した小さなハンドタオルで体を拭き、夜は更けていったのでした。

朝、時差ぼけで5時に起きた私は部屋から外を眺めていました。1時間ぐらいしてお母さんがソルトとペッパー（犬）の散歩に行ってくるわ！貴方も行く？と言うので「イエス！」って言ったけどお母さんは聞こえなかったみたいでさっさと散歩に出かけてしまいました。外を眺めるのに飽きるとキッチンへ行きマリー（猫）と遊びました。

ホームステイ3

いい加減飽きてきましたか？私は飽きてきました。はたして帰国まで書き終われるのでしょうか。記憶も怪しいです。ほとんど抜け落ちています。ケイトに最初に会った場面がスッポリありません。

翌朝、家族が起きてくると私は「ナイストゥミーチュー」を家の中で連発していました。お姉ちゃんに何回も。何か困ってると思った！朝になったらケイトがいると思いこんでいたので「あ、この子がケイト？」って思ったんです。

さあ、そのケイトですがとっても気の合うラブリーな女の子でした。ある日ケイトは学校帰りに美容院を予約しました。帰宅してもどんな髪型にしようかなあーと悩んだり、お母さんに髪の毛を染めてもいい？と聞いてみたり（きれいな金色なのに少し違う色があるのが気になるんだって）とっても楽しそう！翌日、学校が終わり私と合流したケイトは美容院へ向かいます「私が切ってる間その辺散歩しとく？」散歩もいいと思いましたがいギリスの美容院に興味があったので見学する事にしました。…終わってから家までの道がとても長く感じました。思ったとおりの髪型にならなかったようです。世界中どこでもよくある事です。私から見たらかわいかったのですが。。

学校に行く日のお昼ご飯は自分で作ります。ピーナツバターサンドイッチ（最初は普通に日本と同じ形式でハム入れてたんだけど、どうもそれはリッチすぎるみたいでピーナツバターにしない！という空気を感じ取った）、小さなリンゴ（これはおいしくて好きだった）、小袋のポテトチップス。…太るよ。太ったよ。でも回り見渡してもみんな同じ。サンドとリンゴとポテトチップス。その他にもキャラメルアイスクリームのリトル食い、チョコプリン、シリアルつきヨーグルト、ビスケット、チョコレート等、暴食の日々を過ごし、帰国した時には7kgほど体重が増えていました。どすこい。

ケイトのおばあちゃんの口癖は「ラブリー！」でした。おばあちゃんとってもかわいくて大好き！窓にコケの生えたミニを運転する姿が記憶に残っています。日本から持って行ったうどんをおやつに食べようとして（日本食が恋しくなった）作ったのだけど、水が違うからか何故なのか激マズうどんが出来た時、押し付けてすみませんでした。とっても喜んでくれたけど、まずかったと思います。捨てる場所がわからなかったんです。ごめんなさい。

帰国する時に泣かないですんだのはケイトもお母さんもおばあちゃんも「さよなら」じゃなくて「またねー！」って言うてくれたからでした。おう、そうよね！またね！って別れてから12年。筆不精な私は手紙も1,2回しか書かず、いつしか音信不通に。グーグルアースでケイトの家や男子校を眺めてはため息をついています。（ストリートビュー万歳！）きっともうあそこには住んでないんだろうな。あのころにネットがもう少し発達していたならまた違ってたらうなあ。（ポケベル、PHS全盛期の頃のお話です。）

さて、だらだら書いた思い出話はこのぐらいで終わりにします。See you!

七夕と願い事

子どもの頃、短冊に書く願い事といえば「そろばんが上手になりますように」とか「ケーキ屋さんになれますように」とか書いた記憶がありますが皆様はどうでしたか？

娘達の通う（った）幼稚園では7月に七夕祭りが開催され特大の笹に飾りと短冊を吊るして盆踊りをします。長女の時は「おひめさまになりたいです」でした。かわいいー！お母さんはりきってドレス作っちゃう！夫もこのかわいい願い事にメロメロで「ディズニーランド行こうね！」とか言っていました。次女は「すいかとばななとめろんがたべたいです」…それすぐ叶う！いつもは空気読めないのに急に現実的なこと書くからビックリしました。

さてさて、今年は三女の初めての七夕祭りです。願い事にどんな事が書いてあるのか、今から楽しみです。

願い事で思い出しましたが、クリスマスのプレゼントのリクエストも姉妹でもものすごく違います。長女はぎりぎりまで「これにしようかなーでもこれもいいなー」と悩みサンタを困らす典型的な優柔不断女子です。次女は最初から当日まで「これがいい！他のものはいらん！」です。三女はおもちゃ屋で反応を見て決めています。

ある年、次女はこえだちゃんという小さなお人形で遊ぶおもちゃのオレンジちゃんのオレンジのおみせというのをリクエストしました。すでに誕生日などでこえだちゃんのお家やきのこちゃんのレストランはあったので新しいものを希望したのです。私はその希望を聞いてすぐサンタさんに伝えました。ネットで手配しますか？自分で買いに行きますか？と（まだ自分が免許を持っていなかった為ナイショで買うには二つの手しかありません）夫は「仕事帰りに買って帰るよ！まかせて！」と言いましたので、任せる事にしました。そして当日の夜、無事サンタさんは子ども達の枕元にプレゼントを置いて寝ました。次の日の朝、次女は一番に起きるとプレゼントを開けました。すると「えー！またきのこちゃんのいえきたー！さんたさんまちがえたー！じじょちゃんこれもってるのにー！」…はい、ちょっとサンタさんこっち来なさい。「どーすんの？夢壊しちゃ駄目でしょうが！」「はい、すみません」とのやり取りを終えた夫は次女に「あー、次女ちゃんがきのこちゃんのお家壊しちゃったからサンタさん同じのくれたんだね！大事にしないと来年も来るね！」と告げ仕事へ行きました。

確かに壊してたけど、そういう問題なの？聞いた事無いんですけど！

節約生活

何年か前の私は節約生活ブームにのり、たくさんの事を試しました。お風呂のお湯を洗濯に使ったり、野菜の皮を食べてみたり、トイレは外出先で！を実行してみたり。（これは落ち着かなくてすぐやめた）

ある朝のことです。いつもより早く目が覚めた私は家族の朝食に残り野菜でポタージュスープを作る事にしました。気分も上々で素敵な奥様風な自分にうっとりしながらにんじんの尻尾やじゃがいも、キャベツを鍋で煮込みコンソメで味付けしました。牛乳を入れて完成です。

ここで私はひらめきました。「これ、ミキサーでぐるぐるしたら食べやすくっていいんじゃない？」とってもいい事を思いついた私は棚からミキサーを取り出し出来上がった熱々のスープを入れフタをしました。スイッチオン！

ドゥウウウン！

ものすごい音と共に吹き飛ぶフタとキッチン中に飛び散る熱々のポタージュスープ。私の小さなトラウマです。

また、節約生活とセットで楽しんでいたのが懸賞生活です。長女がお腹の中にいる時から懸賞情報が載った雑誌を買って応募したり、途中からはインターネットで応募できるようになったためネットから応募してみたりしていました。クッキーや洗剤の試供品、映画の券、お食事券、色々当たりました。そんな私が懸賞生活を卒業するきっかけは海外旅行でした。なんと北欧8日間の旅が当たったのです。家族中で大喜びし（4人分だったので）まだ長女しかいなかった頃の話なので母と弟も誘い、夫も無事休みが取れ一緒に行けて、とてもすてきな旅行を楽しませてもらいました。

夫はその頃、派手なスポーツカーに乗っていました。それはそれは大切に、私よりも大切に扱っていた愛する車です。その車が旅行から帰ってきて少したったころ、仕事からの帰宅途中に集中豪雨で出来た大きな水溜りに突っ込んでしまい故障しました。運悪く工場は盆休み中ですぐに修理しなかったため大変残念な事になり修理には三桁万円かかりました。この時夫婦で思いました。人生プラスマイナス0！

良い事あれば悪い事ある！絶対！反対もしかり！と、いう事で大きいものを当てる怖さを（たまたまでしょうけど）知ってしまい私の懸賞熱は冷めたのでした。

親知らず

大人になってから生えてくる立派な歯、親知らず。調子が悪いと痛んで腫れて出てくる歯、親知らず。もう生える隙間が無いのに気が付いたら4本ともしっかり生え揃っていました。歯並びの良い方では無いので抜きたかったのですが、抜いた人の体験談に恐れをなし、出産と育児を言い訳にして私は何年も放置していました。

そんなある日、私はハリボーという会社のくまの形をしたグミを食べていました。半分ほど食べたところで「がりごりっ」とごはんに石が混じっていた時と同じ音と感触がしました。「異物混入だ！娘達め！（私に内緒で食べて落として、拾って袋に戻したと思った）」私は吐き出すと同時にグミの袋を覗きます。ですが袋にはキレイなくまのグミしか入っていません。???逆にティッシュに吐き出したほうのグミを見ると白い石が入っていました。理解するまで5分ほどかかりました。そうです、放置していた親知らずが何年もかけて虫歯に蝕まれグミを食べた衝撃で砕けたのです。歯はほとんど空洞になっていてシュークリームで言うとシューだけの状態だったのです。

こうなると言い訳はしてられません。すぐに電話をして歯科の予約をしました。抜歯は次の日になりました。「じゃ、今日は右上抜きますね！」緊張して朝から何も食べていない私はじっと「壁紙が間違い探しだったらいいのに！」と思いながら天井の模様を見つめます。友人は歯医者に行くと言っていたと言っていました。私はそんな事はできません。まずは麻酔です。“麻酔”の麻酔を歯茎とほっぺたの間に挟みます。少したつと先生が「ターラーラーラーラーラー」と嘘をつくとき鼻が伸びてしまう少年のテーマソングがなる注射器を使って麻酔をかけます。曲が終わると麻酔も終わる仕組みなのか、よく出来てるな、と感心していると、曲は中途半端な所で終わりました。あの音は緊張を和らげるためだったのでしょうか？麻酔が効き始めた頃、先生はぐっぐっと親知らずを押しました。「後何分ぐらいかかるんだろう。」と考え始めた私に先生は言いました「あ、もう抜けてるからね！今止血中！」意外とあっけなく抜けました。抜けた歯は本当にぼろぼろでした。いままでどうもありがとう。大事にしてあげられなくてごめんね。

その後残りの3本も順番に抜きました。抜くときよりも抜いた後の傷跡が痛くて、痛み止めを飲んで傷跡がきれいになるのを待ってる感じでした。治ってしまえばとっても快適です。歯磨きも楽になりました。

この体験談で恐れをなして歯科に行かない子が増えませんかように！